

こども通信

新年あけまして

おめでとございいます。

新春のお喜びを申し上げます。
本年も皆さんにとって良い一年でありますように。

* * *

今年も新型コロナウイルスウィルス感染症が気がかりです。すでに首都圏などでは第3波の大きな流行になり、収束は見通せません。



の2番目になります。子年で撒かれた種が芽を出し育っている様子なのだそう。まだ収穫できるような結果は出ていないけれど、成長という大切な時期。今をしっかりと見守ることが、次の段階につながります。急がず構えていること・・・子育てにも似ていますね。

ゆつくり、でも確実に前進していく様子は、まさに牛という動物にぴったりです。

昨年、「鬼滅の刃」が大人気になりました。私もあやかりました(笑)。

鬼が人の社会に襲いかかる様子は、新型コロナにもダブルってきます。

炭治郎のように、勇氣あるヒーローが現れ、新型コロナを次々と退治し

政府は「静かなお正月」を過ごすように求めています。いかがでしょうか。多くの皆さんは配慮されていることでしょう。あまりお正月の気分がわかないと言われるそうです。が、グッと我慢してください。
今年も丑年(うしごし)。十二支

塚田こども医院
 小児科・アレルギー科

 上越市栄町 2-2-25
 TEL 025-544-7777(代)
 025-544-7779(保育室)
 FAX 025-544-8456

 各種ネット予約
 www.0255447777.com/i
 ホームページ
 www.kodomo-iin.com

感染症情報

新型コロナウイルス感染症が首都圏を中心に大きな流行になっています。その流行は全国に飛び火していて、各地でクラスターなどが発生しています。12月中に「勝負の3週間」と位置付けられる期間がありましたが、有効な対策が取られなかったため、流行の勢いは衰えることがありませんでした。年末年始の移動の時期が過ぎ、1月にはさらに大きな流行にならないか、懸念されます。十分に気をつけてください。

多くのクラスターは会食の場所で発生しています。いつもと同じ職場や家庭のメンバーであれば問題はないようです。違う職場の人たちとの会食は控えることは感染の予防になります。

これまで同様に、マスク着用、周囲の人との距離を十分にとるなど、各人の行動にも気をつけてください。

流行地の往来など、行動歴、接触歴で新型コロナ感染症も心配されるときには予め電話連絡をした上での受診をお願いします。

溶連菌感染症と**アデノウイルス性咽頭炎**が少数ですが発生しています。溶連菌感染症は抗菌薬の治療が必要です。

感染性胃腸炎も若干の発生があります。小児は脱水や低血糖になりやすく、ぐったりとしている場合はすぐに受診して下さい。

インフルエンザの流行はまだ始まっていません。

風疹や**麻疹**の発生は当地ではありません。

てくれる、なんとストーリーは夢物語ですね。
今年もまた、新型コロナと対峙する一年になることでしょう。これ以上流行を拡げず、新しい感染者を少なくすること以外に収束への道はありません。
大変な一年になるとは思いますが、何とか乗り切って行きたいものです。本年もどうぞよろしくお願ひします。

今日の予定

院長出務

上越市夜間診療所出務 20日

上越有線放送 「健康ライフ」 19日

FM上越 「Dr. ジローのこども健康相談」

毎週木曜午後1:20頃～(76.1MHz)

感染症情報 (毎週)

FM上越: 木曜午後1:35頃～

上越有線放送: 月曜午後6時～(番組内)

大流行がすぐそこ

新型コロナウイルス感染症については、これまでに分かったことと、まだ分からないことがあります。また今後変わっていくこともあるでしょう。その時々で、きちんとした情報を収集するようにして欲しいと思います。

さらにその情報をご自身で正しいのかも考えて欲しい。テレビやネットで流されている情報の中には、正しくないものもあります。明らかにおかしいものが流されていることもあります。

医療や政策は科学です。それなり

の論理があり、倫理性も求められます。

信じるこ

とから始

まるとい

う宗教(信

じれば救わ

れる?)で

はありませ

ん。また、

例えば大学の教授が言っているから正しい訳でもありません。誰が言っているか、ではなく、何をどのよう

な根拠で言っているかが大切です。

医療者や罹患者への誹謗、中傷

風評被害なども問題です。周囲の空

気に流されず、一人一人がしっかりと

と物事を考え、行動して欲しいと願っています。

前号でもお話ししましたが、当地

ではまだ市中感染には至っていない

ので、感冒症状があっても直ちに新

型コロナを疑う必要はありません。

もちろん流行地への行動歴や、感染

者との接触歴があれば別です。

しかし今後は分かりません。市中

感染になると事態は変わります。

新型コロナが疑われる時には、ま

ずは電話連絡を。かかりつけの医療

機関か、あるいは県が設けている「受

診・相談センター」、あるいは保健

所です。

引き続き流行地との往來を避ける

ように。またマスク、手洗い、周囲

との十分な距離をとるなど、感染予

防の対応をしっかりと継続していき

ださい。

30年の歩み (8)

● 2001年6月 わたぼうし病児保育室の誕生

この年=2001年は新しい21世紀の始まりの年。国連を中心に、21世紀は子どもの世紀とする宣言が出されています(それから20年がたち、ほとんど聞かれなくなっていますが)。

「子どもの世紀」を意識していた訳ではありませんが、でも21世紀のスタートの年に、わたぼうし病児保育室を開設できたことは、とても大きな喜びでした。

病児保育は今でこそ広く知られていますし、なくてはならない子育て支援策と位置付けられています。当時はまだ知らない人が大半。子育て中の方々にも、こんなことができるんですよ、と説明をして、それでもなかなか分かってもらえませんでした。

私がこの事業を行おうと思い立ったのは、さかのぼること5年。開院5周年の行事をしている中のことです。小児科専門の医院としてこの地で仕事をさせてもらっているの、何か恩返しになることはないかな。それが子育てに役に立つことだったらいいな。

いくつかのことを考えました。例えば0歳児を預かる乳児保育。これも当時はまだ少なかったですね。でも、私がやらなくても他の保育を専門にしている人たちが携われること。小児科医にしかできないこと・・・それが病児保育だと気がきました。

病児保育は、全国ではいくつかの施設が先駆的に事業を行って

いるだけで、その頃新潟県には皆無でした。

子どもは急に病気をするもの。でも親は急には仕事を休めないことがままある。このミスマッチは、多くは母親の犠牲(産後に就業できない、仕事を退職する、短時間労働で我慢するなど)で一見解消されているようには見えますが、いつまでもそうであっていいはずがありません。

構想5年。この間に、自治体(上越市)に対して病児保育事業に着手するように働きかけました。市は「病後児保育事業」を立ち上げましたが、医師会理事会の理解が得られず、当院がそれを請け負うことはできませんでした。

でも、本当に必要なのは急性期の病児も扱う「病児保育」です。それは小児科医が関わらなければ実現できません。市内に病後児保育室ができて、やっぱり病児保育が必要!そして、何より私はやりたい!!

一度は病児保育を行うという「夢」を諦めかけていましたが、でも諦める必要はない。公的なものでなく、私的なものであれば市とも医師会とも関係なく、開設することができる。

そう考え、医院2階の空きスペースを改装し、2名の常勤保育士を雇って、わたぼうし病児保育室をスタートさせました。

当初の利用はとても少なかったのですが、次第に増えていきました。きっと実際に利用した方が、こんなふうだったよと「口コミ」してくれたのでしょね。